

「出会いを楽しむ」×「走る」=ソーシャルマラソン！

環境創造局みどりアップ推進部緑地保全推進課 三樹 睦月

1 | 「ソーシャルマラソン」誕生！

走ることは好きですか？

ランニングブームといわれて久しい今日この頃、「もちろん！毎日走ってます」「体力づくりでぼちぼち」という方が相当数いると思われるが、「走るのだけは勘弁して」という方もいるだろう。走ることに對する気持ちはそれぞれだ。しかし、ここでご紹介するのは、そんな誰でもが楽しめるマラソンイベント。その名を「シャルソン」という。

「シャルソン」とは「ソーシャルマラソン」の略称である。マラソンとうたってはいるが、通常のマラソン大会ではない。決められたコースはないし、一斉スタートもない。早い者が勝つという表彰もなく、歩いても自転車でもいいし、タクシーや電車に乗るのもありだったりする。

このシャルソンは、1年前、東京マラソンの過酷な抽選（ちなみに今年は10.3倍！）に当選しそこねた一人のランナーの発想から生まれた。東京マラソンを走れないなら、もっと街を楽しめる「裏東京マラソン」をやろう！

この仕掛け人が、世田谷区経堂で東京初のコワーキングスペース（異なる職業の人などが知恵や情報を共有しながら働く場）「パックス・コワーキング」を作るとともに、あの賛否両論が最も激しい食べ物「パクチャー」をメインにしつつ、“交流する飲食店”というコンセプトを掲げて相席を推奨する居酒屋、その名も「パクチャーハウス東京」を経営している、「旅と平和社」代表取締役の佐谷恭さんだ。現在は「ご当地ソーシャルマラソン協会」の代表もされている。

佐谷さんご本人もジョガーとして、いわゆる普通のマラソン大会に参加していたが、どこか物足りなさを感じていた。そもそも「繋がる」と「楽しむ」ことが使命であり仕事とあってよいような方だ。その発想を「裏東京マラソン」と結びつけ、一風変わったマラソン大会、「ソーシャ

写真1 「経堂マラソン」のTシャツを着る参加者



ルマラソン」を作りあげた。それは「スタートではなくゴールを決めて」「タイムではなく体験を競い」「主催者が選手を管理するのではなく選手が自主的に作る」（「ご当地ソーシャルマラソン協会」ホームページより）というものだ。

記念すべき第1回となる「経堂マラソン」は、平成24年2月26日（日）、東京マラソンと同日に開催された。受付後、お揃いのTシャツを着て好きな時間にパクチャーハウスを出発（写真1）。コースも距離も参加者が自由に決める。給水所の代わりに、世田谷区内の店舗に協力を願い、特産品やシャルソン特別メニューを出したり、携帯への充電ができるという給水・給電ポイントを作った。Tシャツが目印となり、参加者同士が街で出会えば情報交換し、またフェイスブックなどで逐次写真や出来事を共有しあった（写真2）。そして最後は、パクチャーハウスに集まってパーティー。レース中の体験を発表しあい、最も魅力的な体験をした参加者を表彰した。佐谷さんの予想を遥かに超えるさまざまな出会いと体験が生まれたこの「経堂マラソン」から、シャルソンは一気に全国へ広がっていくことになる。

写真2 体験したことをリアルタイムで共有



2 | 横浜で「シャルソン」開催！！

この新しいスタイルのマラソン大会の成功にいち早く反応して、経堂マラソンから2か月経たない4月14日（土）に「第2回ソーシャルマラソン」を開催したのが、実は横浜である。横浜でのシャルソン事務局の森由香さんによると、「シャルソン」という命名は横浜での開催の際になされたそうだ。その後も、墨田、前橋、札幌、新潟と全国各地で次々とシャルソンが開催され、そして同年11月には、横浜で早くも2回目が開催されている（写真3）。結局、平成24年には全国各地10箇所で開催されたシャルソンは、平成25年はその倍以上まで拡大するのは確実だという。

各地のシャルソンは、その枠組みは使いながら、目的も

やり方も、主催者が自在に展開した形で開催している。この柔軟さもシャルソンの面白さだ。通常のマラソン大会のように交通規制やタイム管理に神経をすり減らす必要はない。どう参加するかが参加者の自由なら、どう企画するかも主催者の自由だ。

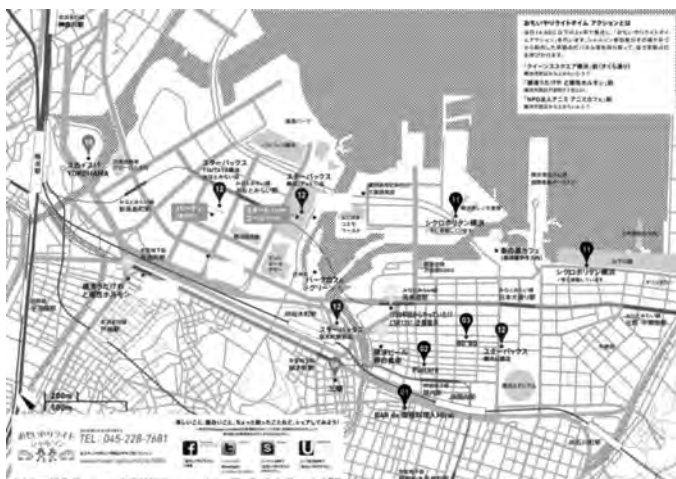
例えば横浜では「おもしろライト」という、安全のために自動車に早めの点灯を呼びかける社会運動と結びついて開催された。選手は決まった時間に決まった3箇所集まって自動車に早期点灯を呼びかけ、PR活動を行った。前橋では、さびれてしまった故郷をなんとかしたいと強く感じていた若者が、街の活性化を願って開催した。

写真3 横浜「おもしろライトシャルソン」(11月)



「給〇ポイント」も各地で特徴がある。横浜ではスタバによる「給コーヒーポイント」のほか、「給地ビールポイント」、「給ピザポイント」や「給餃子ポイント」なんていうのもあった(図1)。他にも、マッサージや家具屋が協力したところもあるし、別府でのシャルソンでは、「給温泉ポイント」も作られたとか!

図1 横浜「おもしろライトシャルソン」の給〇ポイントマップ



3 「長崎シャルソン」に参加しました!!!

かくいう私も、とにかく一度シャルソンを体験してみたいと、平成25年2月11日(祝)に開催された「長崎シャルソン」に参加してみた。こちらはなんとも気楽な形で、特

に給〇ポイントもTシャツもなく、自分のやることを宣言して面白い体験を試みようよ、という形式だった。例えば「(42.195キロにちなんで)42人の観光客と写真を撮る」、「42回の筋トレメニューをこなす」といった具合である。若者の人材育成などをされている主催者が、身近な仲間たちに声をかけて「何か楽しいことを」と開催したという。完全に部外者である私だが、市内ではちょうど旧正月の「ランタンフェスティバル」真っ最中。極彩色に輝く町を堪能しながら観光名所を走り、その後の報告会&パーティーでは特に知合いもいない長崎で在住者の生情報を聞いて(市内の美味しいお店や見所はもちろん、「皿うどんには『金蝶ソース』をかけて食べます、なんていうトリビア情報まで)、こういう「観光シャルソン」もありだなあ、と思った(写真4)。

写真4 「長崎シャルソン」報告会



シャルソンの一つの特徴は、ソーシャルメディアを最大限に使うことだ。各地のシャルソンも、まずはフェイスブックでイベント告知や詳細のお知らせまで情報共有しているところが多いようだし、参加申込もフェイスブックから行う。名簿を作成しなくても、何人参加するのか、どんな人が参加するのか、誰でも確認することができる。それに何よりシャルソン当日、街を好き勝手に走っていても、フェイスブックに途中経過の写真や報告を投稿することで他の参加者との繋がりが生まれ、一体感が生まれる。(その結果、初対面同士でも、ゴールした後のパーティーが盛り上がる!) 走行距離を測定したり、走った足跡をたどることだって出来る。

そもそも、これだけの勢いで全国にシャルソンが広がっていったのも、フェイスブックやツイッターでの情報発信、情報共有に負うところが大きい。

シャルソンの発想やその広がりには、どんどん楽しいことをやろう、もっと面白くしようという軽やかさ、自由さを感じる。「走る楽しさ」だけではなく「繋がる楽しさ」を目的にして、誰でもが楽しめるイベントとなったシャルソン。小規模に多発的に全国に広がっているこの試みは、新しい「繋がる形」として今後もさらに展開していくさうだ。